

フルマラソン2週間前からやつて良いこと、ダメなこと

フルマラソン2週間前から

「最後の強化」で思い切り走った方が良いのか、「疲れを抜く」ために休養に専念した方が良いのか…意外と迷う2週間前。

疲労を残さず体調を万全にしてスタートラインに立つための過ごし方を指導者に聞きました。

トレーニング編

練習は減らした方が良いの?

- △・週1回のレースベース走
- ・1回の走る時間を減らす
- △・3日続けて休む
- △・ゆっくりでしか走らない

練習は減らした方が良いの?

- ・週1回のレースベース走
- ・1回の走る時間を減らす
- △・3日続けて休む
- △・ゆっくりでしか走らない

最長何キロ走ってOK?

- △・30km走
- ・20kmレースベース走

ハーフマラソンに出てもOK?

- △・ハーフベストを出す
- ・ハーフマラソン出場

体重が増えやすい

- ・朝ラン
- ・10分～15分でも走る

レースで必要な筋力や心肺機能を維持しながら、疲れを抜いて調子を上げるポイントは「練習量(距離、時間)は減らす」「運動強度(ペース)は落としすぎない」です。「有酸素能力の指標である最大酸素摂取量の維持にはペースを落とさないことの大切」という研究結果も。自安は2週間前はそれまでの8割程度、1週前は6割(1回で10km走っていた人は8km、6km、60分の人は50分、35分)まったく走らない日が3日以上続くと発汗や血液循環などの身体機能が鈍ってしまうので注意。(岩山)

2週間前にレースベースで走つても大丈夫な最長距離は練習量に比例します。具体的には直前1ヶ月の平均週間走行距離の1/2までが目安。週25kmで月間100km走つた人は12～13km、週40kmで月間160kmの人は20km、週50kmで月間200kmの人は25kmが、疲労を溜めずに強化できる距離設定の目安となります。頑張ってそれよりも長い距離を走ることは可能ですが1回の満足感を得るためにレース前のコンディションを崩しては本末転倒。もし、この時期に長い時間を走ることに不安があるなら、上記の目標距離を上限として、たとえば25kmをキロ7分超で走る3時間走など、少しペースを落として時間を長くするやり方が良いでしょう。(岩山)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまったりません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

筋肉は「ゴム」のような性質があり、動かすことで温まり、伸縮力が高まります。中でも肩甲骨まわりと股関節まわりの筋肉はランニング動作に重要な役割を担いますが、日常生活の中で硬くなりやすい箇所であるため、走る前に動かしておくことが重要。可動域を大きくすることでスムーズな走り出しができ、安定感も増し故に、筋肉痛を残さずにギリギリまで強化できる最後の筋トレのタイミングはレース5日前までが目安。ただし筋トレの習慣がない人は想

定以上の筋肉痛に見舞われるケガがあるのです。2週間前までに一度実施して回復までの期間を把握してください。(安喰)

安喰コーチ お勧め補強

●推進力UPランジウォーク

【やり方】 イラストの姿勢で左右交互に20歩前進

【注意点】 猫背にならないようにし、太ももが水平になるまで腰を落とす。ひざがつま先より前に出ないように注意する

【狙い】 歩幅を広げるとハムストリングスやお尻により高い負荷をかけられる



筋トレって必要?

- △・4日前からの筋トレ
- ・身体の前面だけの筋トレ
- ・ランジなど脚の筋トレ
- ・体幹トレーニング

補強・ケア編

2週間前にレースベースで走つても大丈夫な最長距離は練習量に比例します。具体的には直前1ヶ月の平均週間走行距離の1/2までが目安。週25kmで月間100km走つた人は12～13km、週40kmで月間160kmの人は20km、週50kmで月間200kmの人は25kmが、疲労を溜めずに強化できる距離設定の目安となります。頑張ってそれよりも長い距離を走ることは可能ですが1回の満足感を得るためにレース前のコンディションを崩しては本末転倒。もし、この時期に長い時間を走ることに不安があるなら、上記の目標距離を上限として、たとえば25kmをキロ7分超で走る3時間走など、少しペースを落として時間を長くするやり方が良いでしょう。(岩山)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまうかもしれません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまうかもしれません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

普段家の周りを走るのと同じ感じで、調整せずにぶっつけ本番で出場し、レースベースで最後まで走り切れれば上出来です。レースの雰囲気は本番への予行練習になり緊張感を持って走れるのがメリット。もし終盤で失速しても「疲れが抜ければ走り切れただろう」とポジティブにとらえます。(岩山)

安喰コーチ お勧めテクニック

●深呼吸ランニング

手のひらを外側に返すと胸が開いて呼吸がしやすくなる。酸素を十分に取り込めるリラックスして走れるように。レース中でも活用できる(余裕のあるうちに始める)



調子の良し悪しが分からない

- ・主観で走る(時計を見ない)

アップはした方が良い?

- △・ウォームアップせずに走り出す

スピードを出して走つても大丈夫?

- △・習慣のないスピード練習

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまったりません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまったりません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

普段家の周りを走るのと同じ感じで、調整せずにぶっつけ本番で出場し、レースベースで最後まで走り切れれば上出来です。レースの雰囲気は本番への予行練習になります。緊張感を持って走れるのがメリット。もし終盤で失速しても「疲れが抜ければ走り切れただろう」とポジティブにとらえます。(岩山)

インター走やウイングドスプリントなどのレースベースより速いスピードで走る練習を普段から実施している人は、1週間前から4日前までに弱点チェックに活用してください。具体的には、走ってみると呼吸が苦しければ2日前に1000mを一本実施して心肺機能に刺激を入れます。脚がぎつります。ただし、走り終えるまで見ない日を一度は設定すると「本当の調子」が分かります。(高岡)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまったりません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

ハーフマラソンは20km相当ですが、自己ベストに近いタイムで走ると疲労が残りますし、そこに調子のピークがきてしまったりません。また、万が一違和感が生じた際はレースまでに回復できないリスクが生じます。ハーフでベストタイムを狙う場合は、3週間前までが無難です。(岩山)

練習量が減ると「体重が増えた」という声をよく聞きます。消費エネルギーは体重×距離です。食事を制限するのは骨が折れる、と言う人は、「小分け走」でトータルの走行距離を維持するのが有効です。例えばそれまで1回で10km走つたら、なら、朝ラン5km、駅から自宅まで2km、帰宅後3kmなどに分けても消費エネルギーは変わりません。また筋肉にとっては回復時間を挟むことで同じ10kmでも疲労度合は大幅に下がります。10分、15分でも20kmを稼げますから悔れません。朝や夜間ならゆっくり走れば汗もそこまでかきません。(高岡)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効と考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効と考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効と考えられます。(岩山)

練習量が減ると「体重が増えた」という声をよく聞きます。消費エネルギーは体重×距離です。食事を制限するのは骨が折れる、と言う人は、「小分け走」でトータルの走行距離を維持するのが有効です。例えばそれまで1回で10km走つたら、なら、朝ラン5km、駅から自宅まで2km、帰宅後3kmなどに分けても消費エネルギーは変わりません。また筋肉にとっては回復時間を挟むことで同じ10kmでも疲労度合は大幅に下がります。10分、15分でも20kmを稼げますから悔れません。朝や夜間ならゆっくり走れば汗もそこまでかきません。(高岡)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効と考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効と考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効とと考えられます。(岩山)

練習量が減ると「体重が増えた」という声をよく聞きます。消費エネルギーは体重×距離です。食事を制限するのは骨が折れる、と言う人は、「小分け走」でトータルの走行距離を維持するのが有効です。例えばそれまで1回で10km走つたら、なら、朝ラン5km、駅から自宅まで2km、帰宅後3kmなどに分けても消費エネルギーは変わりません。また筋肉にとっては回復時間を挟むことで同じ10kmでも疲労度合は大幅に下がります。10分、15分でも20kmを稼げますから悔れません。朝や夜間ならゆっくり走れば汗もそこまでかきません。(高岡)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効とと考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効とと考えられます。(岩山)

朝ランは成長ホルモンは短い運動を間隔をあけて繰り返すことで分泌が促されると、朝ランは体重管理の側面からも有効とと考えられます。(岩山)

練習量が減ると「体重が増えた」という声をよく聞きます。消費エネルギーは体重×距離です。食事を制限するのは骨が折れる、と言う人は、「小分け走」でトータルの走行距離を維持するのが有効です。例えばそれまで1回で10km走つたら、なら、朝ラン5km、駅から自宅まで2km、帰宅後3kmなどに分けても消費エネルギーは変わりません。また筋肉にとっては回復時間を挟むことで同じ10kmでも疲労度合は大幅に下がります。10分、15

